

# 多職種連携推進研修部会の第3回研修会が開 催されました



2018年12月7日

## 第3回多職種連携研修会

12月7日上越市市民プラザ 第3会議室にて第3回多職種連携研修会を開催しました。

参加者は、医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、相談員、リハビリ職、介護支援専門員、介護員、福祉用具専門相談員等25名、部会委員4名、事務局3名の計32名です。

多職種連携研修会では、参加者の皆さんから、各職能団体や職場で、多職種連携のツールとして地域連携連絡票の活用をすすめていくリーダーとなっていただくため、第1回研修会は「地域連携連絡票について学ぶ」、第2回研修会は「退院前カンファレンスについて学ぶ」をテーマに開催してきました。

### ○第3回研修会内容

【テーマ】サービス担当者会議について学ぶ

第3回研修会では、サービス担当者会議の目的や意義について理解を深めるため、講義に続き模擬サービス担当者会議を行いました。

また、地域連携連絡票をどのように活用していくことができるかや、全3回を通して学んだことについて話し合い、以下の意見が出ました。

～ グループワークから ～

《地域連携連絡票をどのように活用していくことができるか》

- 全体像を確認できるため、情報共有の良いツールとなる。
- カンファレンスや会議の際に事前に配付することで時間短縮ができる。
- 地域連携連絡票をもとに、連携がとれ、多職種の意見を活かして自分の関わりにつなげることができる。
- 多職種で協同して作り上げていくことでケアマネの負担を軽減できるのではないかと。MC ネットなどを活用し、連携して作成できると良い。
- サービス事業所の申込書として活用できると良い。
- 入院時に担当看護師へ在宅での様子を伝えるための情報提供に活用できる。

《全3回を通して学んだこと》

- 地域連携連絡票が他職種との情報共有に役立っていることが分かった。頑張りたいと思った。
- 退院前カンファレンスやサービス担当者会議の意義が分かった。
- 普段関わることの少ない職種の方とも話をすることで、それぞれの専門性や強みを知ることができた。